

考え方 ① 具体物を使って、5の分解ができるようにします。

② 数字を見て、5の分解ができるようにします。

>5. ① なかまづくりと かず 5 ページ

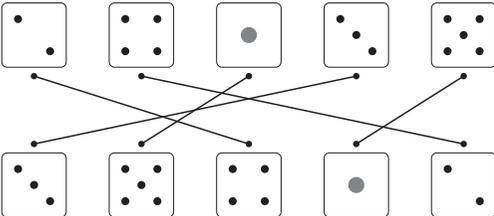
①  ②  ③ 

④  ろく 6 6 6 6
 ⑤  しち 7 7 7 7
 ⑥  はち 8 8 8 8
 ⑦  く 9 9 9 9
 ⑧  じゅう 10 10 10 10

考え方 ① 10までの具体的なものの数を数えて、同じ数の●と対応させます。

② 6~10までの数字がしっかりと書けるようにしましょう。

>6. ① なかまづくりと かず 6 ページ

① 

② 7 3 4 ③ 7 4 3
 ④ 7 5 2 ⑤ 7 2 5
 ⑥ 7 6 1

考え方 ① サイコロの●の数から、6の合成ができるようにします。

② おはじきなどの具体物を使って、7の分解ができるようにしましょう。

>7. ① なかまづくりと かず 7 ページ

① 2 と 6 ② 5 と 3
 ③ 7 と 1 ④ 3 と 5

- ① 7 ② 2
 ③ 6 ④ 4
 ⑤ 4 ⑥ 9

考え方 ① ●の数から、8の分解ができるようにし、数字でも表せるようにします。

② 8、9を、たとえば「2と6」、「4と5」のように、2つの数に分解できるようにします。

>8. ① なかまづくりと かず 8 ページ

① ③ ⑧
 ② ⑥ ②
 ③ ⑨ ④ ⑩

④ 7 3 1 6 2 5
9 4 3 7 5 8

考え方 ① ② 10を2つの数に分解できるようにします。

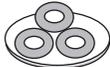
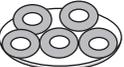
③ 10になる数の合成の組み合わせが数字だけで選べるようにします。

9. ① なかまづくりと かず 9 ページ

①  
 () (○)

②  
 (○) ()

① 
 ② 

  
 3 0 5

考え方 ① 具体物の大小、数字の大小が理解できるようにします。

② 1~10までの数のどこから始めても、順番に唱えられ、数字を書くことができるようにしましょう。

③ 「何もない」という意味としての0が、他の数字と同じ仲間としてとらえられるようにします。

10. ② なんばんめ 10 ページ

① まえから 2ひき
 まえ      うしろ

② まえから 2ひきめ
 まえ      うしろ

③ うしろから 5にん
 まえ         うしろ

④ うしろから 5にんめ
 まえ         うしろ

① まえから 3だい
 まえ         うしろ

② うしろから 3だいめ
 まえ         うしろ

考え方 「まえから~ひき(にん・だい)」は、先頭から~ひきめ(にんめ・だいめ)までのまとまりを指し、「まえから~ひきめ(にんめ・だいめ)」は、1つだけを指します。この違いを理解させることが大切です。

11. ② なんばんめ 11 ページ

- ① ①5ばんめ ②うさぎ
 ③4ばんめ ④いぬ
 ①4、3 ②5、2

考え方 ① 順序を表すには基準点が必要で、「まえから」「うしろから」のほかに「うえから」「したから」という表し方もあります。

② 例えば、みかんの位置が「左から4番目」と「右から3番目」と2通りの表し方があるように、ものの位置を表すには、必ず2通りの表し方があります。基準点を変えると、同じものでも違う表し方があることに気づかせてください。

12. ③ あわせて いくつ ふえると いくつ 12 ページ

- ① ①4こ ②3こ
 ② しき $1+4=5$ こたえ 5ひき
 ③ しき $2+3=5$ こたえ 5さつ

考え方 ① 具体物をあわせて、数の変化を考えることにより、「あわせる」ことでたし算が用いられることの準備をします。

② ③ 「あわせる」ことに対してたし算を用いることを、しっかりと理解させます。「あわせて」がたし算になることを強調します。

考え方 ① 「のこりは」で数の変化を考えることにより、ひき算が用いられることの準備をします。

② ③ のこった数を求めるのにひき算を用いることを、しっかりと理解させましょう。「のこりは」がひき算になることを強調します。

18. ④ のこりは いくつ ちがいは いくつ 18 ページ

- ① しき $6-2=4$ ことえ 4こ
 ② ①4 ②3
 ③4 ④2
 ⑤7 ⑥3
 ⑦8 ⑧1
 ③ しき $10-3=7$ ことえ 7ほん

考え方 ③ のこりの数を求めるひき算には、部分の数を求めるものも含まれます。どんな仲間の数を求めるのかを考えさせることが大切です。

19. ④ のこりは いくつ ちがいは いくつ 19 ページ

① おもて

2-1

5-4

6-3

 ↓ ↓ ↓
 うら

1

1

3

おもて

8-4

10-6

9-1

 ↓ ↓ ↓
 うら

4

4

8

②

3-1

10-7

9-4

8-2

 ↙ ↘ ↙ ↘
 ↘ ↙ ↘ ↙

8-5

9-3

10-8

7-2

考え方 ① ひき算カードを用いて、ひき算の習熟を確実なものにしましょう。

② ひき算をすることにより、同じ答え(差)になるものを見つけます。

20. ④ のこりは いくつ ちがいは いくつ 20 ページ

- ① ①しき $4-4=0$ ことえ 0こ
 ②しき $4-0=4$ ことえ 4こ
 ② ①0 ②0
 ③0 ④0
 ⑤3 ⑥8
 ⑦9 ⑧0

考え方 ① ひかれる数と同じ数をひくと答えは0になること、ひかれる数から0をひくと答えはひかれる数になることを、具体物を数えることにより、理解させます。

② ひかれる数と同じ数をひくひき算、0をひくひき算、 $0-0$ のひき算の練習をします。

21. ④ のこりは いくつ ちがいは いくつ 21 ページ

- ① ①すいか
 ②しき $7-4=3$ ことえ 3こ
 ② しき $9-7=2$ ことえ 2ひき

考え方 のこりの数を求める(求残)ひき算だけでなく、2つの数の違いを求める(求差)ときにもひき算を使うことを理解させましょう。具体物を用いて|対|に対応させ、ひき算を用いて違いが求められることに気づかせてください。

22. ④ のこりは いくつ ちがいは いくつ 22 ページ

- ① しき $9-4=5$
 ことえ かめが 5ひき おおい。
 ② 3、6、3

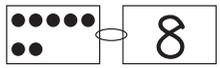
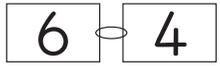
26. ⑤ どちらが ながい 26 ページ

- 1 ① 6つぶん ② 3つぶん
 ③ まじっくが ますの 3つぶん ながい。
- 2 あ

考え方 ① ますの数で長さの測定をして、長さの比較をします。③右端がそろっているの、左に出ている分が長いことになり
 ます。

② つみきの数の大小で高さを比較できることに気づかせましょう。

27. なかまづくりと かず/なんばんめ 27 ページ

- ★ ①  () (○)
- ②  (○) ()
- ★ ① — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 —
 ② — 5 — 6 — 7 — 8 — 9 —
- ★ ① 5ばんめ、2ばんめ
 ② 1ばんめ、6ばんめ

考え方 ★ 1～10までの数の大小が、理解できているか確認します。

★ 1～10までのどこから始めても、順番通りに数字が書けるか確認します。まちがえた場合は、1つずつ声に出して数えながらゆっくりと考えさせましょう。

★ 基準点を変えると、同じものでも違う表し方があることを、確認します。

28. あわせて いくつ ふえると いくつ / のこりは いくつ ちがいは いくつ 28 ページ

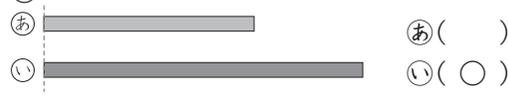
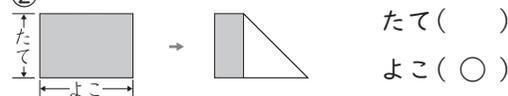
- ★ ① 5 ② 7
 ③ 9 ④ 8
 ⑤ 10 ⑥ 0
 ⑦ 1 ⑧ 2
 ⑨ 4 ⑩ 8
 ⑪ 0 ⑫ 6
- ★ しき $5+3=8$ ことえ 8わ
 ★ しき $7-4=3$ ことえ 3つ

考え方 ★ |けたどうしのくり上がりやくり下がりのない計算の定着を確認します。

★ ふえる(増加)場面のたし算です。

★ 違いを求める(求差)場面のひき算です。

29. どちらが ながい 29 ページ

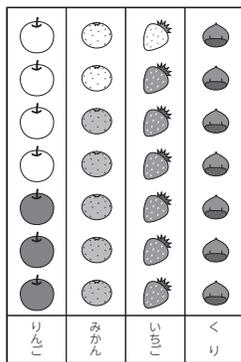
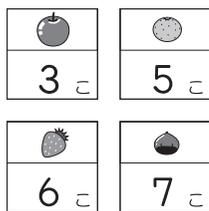
- ★ ①  あ()
 い(○)
- ②  たて()
 よこ(○)
- ★ ① だいこん ② じゃがいも

考え方 ★ 長さを比較できるかを確認します。

★ ①左端がそろっているの、いちばん右に出ているものを選びます。

30. ⑥ わかりやすく せいりしよう 30 ページ

- ① ①(右図)
②くり
③りんご
④(下図)



考え方 ①果物が混在しているので、それぞれの果物1つずつに印をつけながら絵グラフに色をぬるとよいでしょう。
②③絵グラフに表すと、数の大小がわかりやすくなることに気づかせてください。

31. ⑥ わかりやすく せいりしよう 31 ページ

- ① ①1ぱん
②2はん
③いちご

考え方 ①②2つある絵グラフを見て、結果を比較できるようにします。
③2つある絵グラフの結果から、どういうことがいえるかを学習します。

32. ⑦ 10より おおきい かず 32 ページ

- ① ①12 ②15
③13 ④20

考え方 十進法の原理について、基本的な理解を図りましょう。10のまとまりと端数に分ける、「10といくつ」という数になることを身につけます。また、10のまとまり2つで20となることも習得します。

33. ⑦ 10より おおきい かず 33 ページ

- ① ①14 ②11
③19
② ①16 ②20

考え方 ① 具体物を数えるにあたり、10のまとまりをつくとわかりやすくなることに気づかせましょう。

② ①は「2、4、6、…」と2ずつ、②は「5、10、…」と5ずつ数えて10のまとまりをつくり、数えていく工夫をすることを学習します。

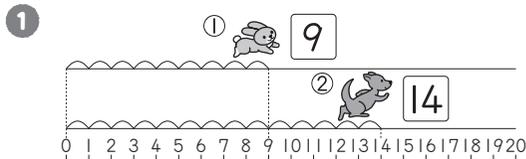
34. ⑦ 10より おおきい かず 34 ページ

- ① ①15 ひき ②13 ばんめ
② ①2 ②10
③ ①11 ②14
③10 ④7

考え方 ① 10より大きい数でも、順番の数え方は10までの数と変わりません。

② 「10いくつ」が10と端数であることを、具体的に□を数えながら身につけます。
③ 「10と1で11」、また逆に「11は10と1」であるというように、「10いくつ」が10のまとまりと端数であることに気づかせます。

35. ⑦ 10より おおきい かず 35 ページ



- ② ① — 13 — 14 — 15 — 16 —
② — 12 — 14 — 16 — 18 — 20 —
③ ①15 ②13
④ 15

考え方 数直線のしくみを学習します。

① うさぎ、カンガルーの位置の数字をよみましょう。
② 数直線を左からよんでいくと、右へ行くほど数が大きくなっています。②は2とびになっています。
④ 横一列に10を○で囲むと、数えやすいでしょう。

考え方 ② たされる数のほうが小さいたし算の計算です。計算方法を確認しながら、計算するとよいでしょう。

③ あわせる(合併)場面のたし算ですから、式は $7+6=13$ でもかまいません。

47. ⑪ たしざん

47 ページ

① おもて $5+7$ $8+7$ $7+6$
 うら 12 15 13

おもて $3+8$ $4+7$ $9+8$
 うら 11 11 17

② $9+5$ $7+4$ $9+6$ $4+8$
 $7+8$ $6+8$ $6+6$ $5+6$

考え方 このようなカードを作って、カードを利用して、くり上がりのあるたし算の習熟を図りましょう。

48. ⑪ たしざん

48 ページ

① 12
② ① 11 ② 14
 ③ 13 ④ 16
 ⑤ 11 ⑥ 14

③ ① $7+7$ $6+9$ ② $5+8$ $9+3$
 () () () ()

④ しき $8+4=12$ ことえ 12 だい

考え方 ① たされる数を 10 にする方法で計算します。

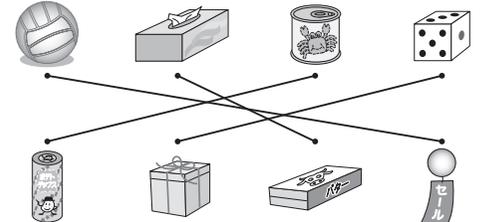
③ くり上がりのあるたし算と、答え(和)の大きさがわかるか確認します。

④ 具体物の計算(増加)をくり上がりのあるたし算で解くことができるか確認します。

おうちの **かた** くり上がりのあるたし算では、たす数とたされる数のどちらが 10 にしやすいかを判断する力を養いましょう。

49. ⑫ かたちあそび

49 ページ

① 

② あ  ()
 い  ()
 う  ()
 え  ()

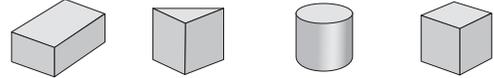
お  ()
 か  ()
 き  ()
 く  ()

考え方 ① 身の回りにある立体をだまかに分類できるようにします。面の形に着目して、立体の特徴をとらえさせましょう。

② 面の形に円(まる)があるもの(円柱)を選びます。

50. ⑫ かたちあそび

50 ページ

① 

② つみき  ()
 あ  ()
 い  ()

う  ()
 え  ()
 お  ()

考え方 立体を構成している面の形に着目しましょう。

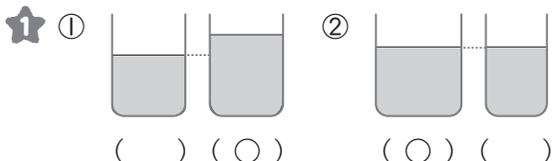
考え方 2 くり下がりのあるひき算が確実にできるか確認します。

3 くり下がりのあるひき算と、答え(差)の大きさがわかるか確認します。

4 違いを求める(求差)場面のひき算です。ひき算では必ず大きい数から小さい数をひくので、式を $7-14=7$ などとしないように注意しましょう。

おうちの **かた** くり下がりのあるひき算では、ひかれる数を分解する減加法と、ひく数を分解する減々法の2種類があります。計算方法を判断して、早く正確にできるように指導してください。

57. どちらが おおい/たしざん **57** ページ



- 2** ①16 ②16 ③18
④14 ⑤11 ⑥12
⑦14 ⑧14 ⑨11

3 しき $8+5=13$ ことえ 13 わ

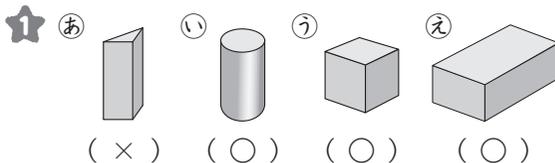
考え方 1 かさ(容積)を比較できるかを確認します。

- ①は容器の大きさが同じなので水の高さ、
②は水の高さが同じなので容器の大きさを比べて判断します。

2 1年生で学ぶ主な計算の練習です。まちがえたら、計算方法を確認して、それぞれの単元に戻って練習しましょう。

3 増加の場面のたし算です。

58. かたちあそび/ひきざん **58** ページ



- 2** ①7 ②9
③8 ④3
⑤9 ⑥6

3 しき $12-8=4$ ことえ 4 こ

考え方 1 使われている形は、ましかく(正方形)とながしかく(長方形)とまる(円)です。これらの形を含む立体を見つけます。

2 くり下がりのあるひき算が確実にできるか確認します。

3 違いを求める(求差)場面のひき算です。ひき算では必ず大きい数から小さい数をひくので、式を $8-12=4$ などとしないように注意しましょう。

59. ⑭ おおきい かず **59** ページ

1

①	十のくらい	一のくらい
	4	4

②	十のくらい	一のくらい
	7	3

③	十のくらい	一のくらい
	4	6

④	十のくらい	一のくらい
	5	4

考え方 2けたの数は、十の位の数字と一の位の数字を使って表します。数えるときは、10のまとまりをつくりながら、10のまとまりがいくつと端数がいくつと考えて数を表します。

60. ⑭ おおきい かず 60 ページ

- ① ①84 ②70
 ③5、4 ④6
 ⑤92 ⑥4、7
 ⑦8、0

考え方 2けたの数が、10の集まりと端数で構成されていることを理解させましょう。10の集まりの数を十の位に、端数は一の位に置かれることを確認しましょう。

61. ⑭ おおきい かず 61 ページ

- ① ①

1	0	0
---	---	---

 ②

1	0	0
---	---	---

 ③

1	0	0
---	---	---

 ④

1	0	0
---	---	---

考え方 10が10こ集まって100になるということ、具体物を数えながら身につけます。②のように、10が9こと1が10こでも100になることを理解させましょう。

62. ⑭ おおきい かず 62 ページ

- ① ①63 ②93
 ③

81	82	83	84	85
----	----	----	----	----

 —
 ④

50	60	70	80	90
----	----	----	----	----

 —
 ⑤

55	60	65	70	75
----	----	----	----	----

 —
 ⑥

90	89	88	87	86
----	----	----	----	----

 —
- ② ① ② ③

60	58
----	----

85	68
----	----

91	89
----	----

 (○) () (○) () (○) ()

考え方 ① 数直線を参考にして、100までの数の並び方を理解します。数直線上では、右へいくほど大きく、左へいくほど小さくなっていることを確認させましょう。
 ② 2けたの数の大小の比較は、十の位の数字を比べて、十の位が同じなら一の位の数字の大小を比べます。

63. ⑭ おおきい かず 63 ページ

- ① ①100と 6で 106
 ②100と 14で 114
 ② ①101、103 ②117、119

考え方 ① 100より大きい数は、「100といくつ」と考えて数を表します。①のように、十の位に数がないときは0を書くのを忘れないよう指導しましょう。

② 100より大きい数の並び方(系列)を問う問題です。数がどのように並んでいるかを、まず調べさせましょう。

64. ⑭ おおきい かず 64 ページ

- ① ①25 ②20
 ② ①34 ②49
 ③56 ④67
 ⑤40 ⑥50
 ⑦60 ⑧70

考え方 2けたの数を「何十」と「いくつ」に分けて、「いくつ」の部分をついたりひいたりします。

65. ⑭ おおきい かず 65 ページ

- ① ①4 ②3、7 ③7、27
 ② ①7 ②5、2 ③2、22

考え方 2けたの数の簡単な計算を学習します。2けたの数を「何十」と「いくつ」に分けて、「いくつ」の部分の計算をして、その結果に何十をあわせませます。

66. ⑭ おおきい かず 66 ページ

- ① しき $40+30=70$ ことえ 70 まい
 ② しき $50-30=20$ ことえ 20 まい
 ③ ①50 ②40
 ③70 ④30
 ⑤100 ⑥20

考え方 何十と何十のたし算・ひき算は、10を束にして考えると、1けたの数のたし算・ひき算で計算できます。

67. ⑭ おおきい かず

67 ページ

- 1 63
 2 ①47 ②68
 ③5、9 ④90、110
 ⑤95、105
 3 ①100 ②60
 ③78 ④90

考え方 ① 10のまとまりと端数で「何十何」、10のまとまりが10こで100になるということを理解しているか確認します。
 ② ①～③2けたの数の構成を確認します。
 ④⑤数の系列(並び方)の問題です。④は10ずつ、⑤は5ずつ大きくなっています。まちがえた場合は、数直線を使って考えさせるとよいでしょう。
 ③ ①②は10の束で考えると簡単な計算で答えが出せます。③④は一の位の計算をします。

おうちの **かたへ** ここでは、2けたの数の数え方や読み方・書き方に習熟させます。十の位は数字の位置によって示されることを理解させましょう。また、100より大きな数は、1年生ではまだ百の位を学ばないので、「100といくつ」と考えて、100までの数と同様に表せることを理解することが大切です。

68. ⑮ どちらが ひろい

68 ページ

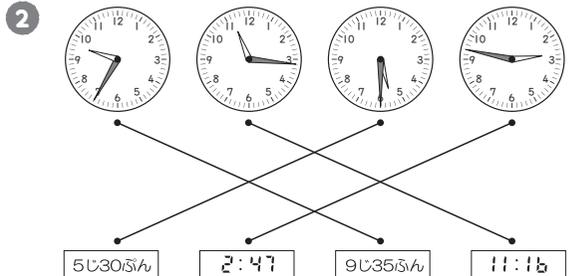
- 1 ①① ②②
 2 ①① ②②

考え方 ① ②と①の2辺をそろえて、直接重ねて広さを比べます。重ねて余りが出たほうが広いことに気づかせましょう。
 ② ①では□の数を数えて比べ、いくつ分違うかで確かめられます。②では、三角形の板をそれぞれ数えます。

69. ⑯ なんじなんぷん

69 ページ

- 1 ①9じ30ぶん
 ②7じ15ぶん
 ③3じ57ぶん



- 3 ① ② ③



考え方 時計の短針は「時」、長針は「分」を表します。長針が1を指しているときは5分、2では10分、3では15分、……という、長針の位置と「分」の関係を理解させましょう。また、文字盤のあるアナログ時計とデジタル表示との関係も確認させてください。

70. ⑰ たしざんと ひきざん

70 ページ

- 1 ②3にん ①7にん
 しき $3+7=10$ こたえ 10にん
 2 ②①4にん ①②9にん
 しき $14-9=5$ こたえ 5にん

考え方 「～番目」のような順番の数(順序数)はそのまま計算に使えないので、順序数を集合数(～にん)に置き換えて計算に用いる考え方を、図を参考にしながら学習します。
 ① 「前から3番目までにいる人数は3にん」と考えて、3(にん)+7(にん)と立式します。
 ② 「前から9番目までにいる人数は9にん」と考えて、14(にん)-9(にん)と立式します。

71. ⑰ たしざんと ひきざん 71 ページ

- ① ① 6こ ② 3こ
しき $6+3=9$ ことえ 9こ
- ② ① 5こ ② 8にん
しき $8-5=3$ ことえ 3にん

考え方 ものの数を人の数に置き換えたり、人の数をものの数に置き換えたりして計算する問題です。図を参考にして、考えさせましょう。

- ① 「6にんの子どもに配るドーナツの数は6こ」と考えて、6(こ)+3(こ)と立式します。
- ② 「5このいすに座ったひとの数は5にん」と考えて、8(にん)-5(にん)と立式します。

72. ⑰ たしざんと ひきざん 72 ページ

- ① ① 8ほん ② 6ぼん おおい
しき $8+6=14$ ことえ 14ほん
- ② ① 12こ ② 5こ すくない
しき $12-5=7$ ことえ 7こ

考え方 ある数をもとにして、それより多い場合はたし算、少ない場合はひき算で答えを求めます。図を参考にして、考えさせましょう。

- ① 「白い花は、赤い花より6本多い」ので、 $8+6$ とたし算になります。
- ② 「りんごは、みかんより5こ少ない」ので、 $12-5$ とひき算になります。

73. ⑰ たしざんと ひきざん 73 ページ

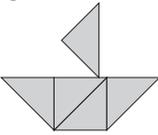
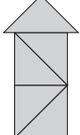
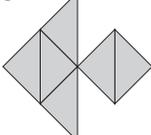
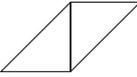
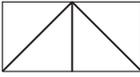
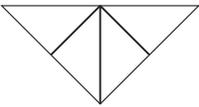
- ① ① 3にん ② 5にん
しき $3+1+5=9$ ことえ 9にん
- ② ① 6にん ② 4にん
しき $6+1+4=11$ ことえ 11にん

考え方 問題文に合わせて図を完成させると、基準となる人の前後の人数に、基準の人の分の1人を加えれば、並んでいる全体の人数になることがわかります。

おうちの 文章をよく読んで、その内容を図に表すことで、数量の関係が明らかになることに気づかせましょう。自分で図に表す力を身につけることは、算数の学習には大変重要なことです。

文章題がわからない場合は、できるだけ図に表して、数量の関係を視覚的にとらえられるようにしましょう。

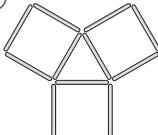
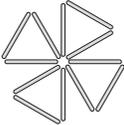
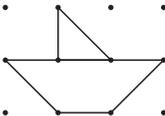
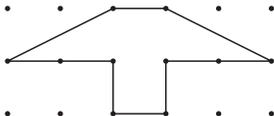
74. ⑱ かたちづくり 74 ページ

- ① ①  5まい ②  5まい ③  6まい
- ② ①  ② [れい]  ③ [れい]  ④ [れい] 

考え方 実際に色板を使って、並べながら考えるとよいでしょう。

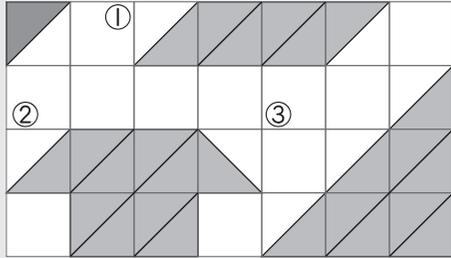
- ② ②③④は[れい]の他にも並べ方が考えられます。

75. ⑱ かたちづくり 75 ページ

- ① ①  6ぼん ②  12ほん ③  12ほん
- ② ①  ② 

考え方 ☆ ① 2けたの数は、10の束の数と1の端数の数で構成されていることを確認します。② 10が10こ集まると100になることを確認します。③④ 数の系列(並び方)の問題です。③は10ずつ、④は1ずつ大きくなっています。

☆ 下のように、図に線をかいていくと、何枚の色板が使われているかがわかります。1つの方眼に2枚の色板が使われていることにも気づかせるとよいでしょう。



☆ 下のように、図に方眼をかいてみると、わかりやすくなるでしょう。

